

臨床研究の公開情報

豊橋市民病院では、下記の臨床研究を実施いたします。

この研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さん（もしくは代理人）から直接同意をいただく代わりに、研究内容の情報を公開することが必要とされております。

[試験名]

気道異物による窒息に対する多施設前向き観察研究（MOCHI）

[実施期間]

2020年12月2日 から 2023年3月31日 まで

[対象となる方]

2020年12月2日から2023年3月31日までに豊橋市民病院救命救急センターへ気道異物による気道閉塞で救急搬送された全ての患者さんが対象となります。

[研究責任者]

日本医科大学付属病院 救命救急科 助教 五十嵐 豊
豊橋市民病院 救急科 部長 平松和洋

[研究の目的]

厚生労働省発行の人口動態統計(2015)によれば、窒息による死亡者数は約1万人程度で、2006年に交通事故を抜いて以来、不慮の外因死の第一位となっています。交通事故死が毎年減少しているのに対して、窒息による死亡者数は毎年増加しています。そのほとんどが高齢者で、さらに高齢化が進むことにより、その数は今後も増加されることが懸念されています。しかし、国際的に窒息に対する処置や治療に対する重要性は認識されておらず、あまり研究されていません。その結果、海外での蘇生ガイドラインにおいても、気道異物による窒息に対して、最も効果的かつ安全性の高い治療法は明らかにされていないのが現状です。本研究では、窒息が公衆衛生上の問題となっている本邦で、信頼できる大規模な窒息のデータベースを構築し、診療行為と治療結果の関連を明らかにすることを目的としています。そして、2025年の蘇生ガイドラインの改訂に新たなエビデンスを提供することを目標としています。

[データの利用について]

●情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

当院診療録の中において、患者背景、病院到着前の情報、治療法、転帰などの情報を匿名化してWeb登録を行います。気道閉塞時間と予後の関係、治療法と予後の関係等を明らかにするため、登録した情報を用います。個人情報の保護のため、登録については無記名であり、個人を識別できる情報（氏名、住所、生年月日、電話番号等）は入力されないため、対象者個人の不利益になることはありません。

●研究に利用する情報の項目

患者背景（年齢、性別、既往歴、生活歴、ADL、介護度など）、病院到着前の情報（発生状況、時間経過、現場でのバイタルサイン、異物の種類、閉塞部位、心肺停止の有無、気管挿管の有無、アドレナリンの投与量など）、治療法（気管挿管、低体温療法など）、転帰（発生30日後のCerebral performance category scale など）

●利用する者の範囲

豊橋市民病院 救急科 スタッフ一同

●個人情報管理者

豊橋市民病院 救急科 深谷兼次

情報の研究への利用は、本人もしくは代理人の請求によりいつでも拒否することができます。

ご自分のデータを使ってほしくない方（又は代理人の方）は、担当医もしくは下記窓口までお申し出ください。

ただし、既に作成された分析用データおよび分析済みの結果につきましては、削除することが困難な場合がありますのでご了承ください。

<豊橋市民病院の相談窓口>

豊橋市民病院 臨床研究管理室
（または救急科 石井健太）
〒441-8570
豊橋市青竹町字八間西 50 番地
☎0532-33-6111（代表）

<研究責任施設の相談窓口>

研究責任者 日本医科大学付属病院 救命救急科
助教 五十嵐 豊
〒113-8603
東京都文京区千駄木 1-1-5
☎03-3822-2131（代表）

豊橋市民病院 救急科